

第2回青少年問題協議会での主な意見一覧

参考資料 1

No.	主な発言	計画（案）への反映
1	<p>情報発信しても届かないことが課題であると考え る。アウトリーチにより対面で直接届けることが 大切ではないか。</p>	<p>P33施策目標1（1）に追記 地域において、支援につながっていないひきこもり等の困難を 有する子ども・若者やその家族を把握し、直接、情報を伝える ことができるよう、ひきこもり等の支援に関する情報を共有し ます。関係者や市民が直接情報を伝えることが困難な場合は、 ひきこもり等子ども・若者相談支援センターを中心とした支援 機関と連携を図りながら、それぞれの状況に合ったアプローチ を検討し、当事者等が支援につながるよう情報の提供に取り組 みます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の中に記載されている居場所は会議的な居 場所になっているように思うが、どんな子ども ・若者でも気軽に付けて、自由に過ごせるような居 場所が必要なのではないか。 ・地域の居場所づくりに力を入れてほしい。学習 支援的な居場所があればよい。 	<p>P38施策目標3（1）に追記 また、枚方公園青少年センターや生涯学習市民センターのよう に、子ども・若者の学習と憩いの場となる居場所があります が、誰もが気軽に立ち寄ることができ、自由に過ごすことがで きる居場所についてもさらに検討し、子ども・若者が社会とつ ながることができる場等の充実に努めます。</p>
3	<p>中学時代の不登校がきっかけでひきこもりに至る 人が多いので、中学校への対応に重点を置くべき ではないか。</p>	<p>P33施策目標1（1）に追記 また、小学校や中学校の時点から、相談窓口の周知を行うこと で、子ども自身やその保護者に、困った時の相談先があること を知ってもらうことに努めます。</p> <p>P45施策目標5（1）に追記 「ひきこもり・不登校等に関するアンケート調査」において は、不登校になったことのある人の半数が中学校に通っていた 頃に不登校になったと回答しています。今後の進路や将来の就 労にもつながる大事な時期であり、例えば、スクールソシヤ ルワーカーをはじめとした専門家が長期的な視野を持ってより きめ細やかな支援を行えるよう検討するなど、特に中学校での 不登校に焦点を当てた取り組みに努めます。</p>
4	<p>枚方市の取り組みを児童の保護者も含めて小学校 の時から知ってもらえるようにしてはどうか。</p>	<p>P33施策目標1（1）に追記 小学校や中学校、高等学校と連携し、児童・生徒全体に相談先 等に関する情報発信を行うとともに、</p> <p>P33施策目標1（1）に追記 また、小学校や中学校の時点から、相談窓口の周知を行うこと で、子ども自身やその保護者に、困った時の相談先があること を知ってもらうことに努めます。</p>
5	<p>発達障害やグレーゾーンの子の理解を深めてもら えるような講演などを通じて、周囲の人に理解し てもらうことで、少しでもひきこもりにつながる ことを防げるのではないかと。人によっては、ひき こもりや不登校は問題ではないのかもしれない が、問題だと感じていて情報を求めている人には 情報が確実に届くようにすべきではないか。</p>	<p>P48施策目標6（1）に追記 「枚方市人権尊重のまちづくり基本計画」を踏まえ、市民連続 講座やシンポジウム等を開催し、ひきこもり等に至る背景など 子ども・若者の多様性に対する理解の浸透を図ります。</p>
6	<p>家族会の横のつながりを発展させるべきと考え る。中学校の不登校の親の会とのつながりも模索 してもらいたい。</p>	<p>P41施策目標3（3）に追記 本市には、家族等が立ち上げたひきこもり・不登校の理解を深 め、家族どうしが交流できる「家族会」が複数あります。市内 で活動するひきこもり・不登校の家族会等で構成される「枚方 市不登校・ひきこもり家族会連絡会」では、定期的に連絡会を 実施するなど、家族会どうしの横のつながりを深めており、</p>
7	<p>サクセスストーリーや気分があがる情報を発信し てはどうか。</p>	<p>P34、37、39、49 コラムの「相談支援の例」で、サクセスストーリーを記載し、 当該コラムのサブタイトルも気分があがるタイトルとしまし た。</p>